

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

# 公開実用 昭和61-11525

⑬ 日本国特許庁(JP)

⑭ 実用新案出願公開

⑯ 公開実用新案公報(U) 昭61-11525

⑮ Int. Cl. <sup>4</sup>	識別記号	庁内整理番号	⑰ 公開 昭和61年(1986)1月23日
B 65 D 8/16		6540-3E	
B 29 C 65/44		2114-4F	
B 65 D 8/04		6540-3E	
// B 29 L 22:00		4F	
			審査請求 未請求 (全 頁)

⑱ 考案の名称 容 器

⑲ 実 願 昭59-95486

⑳ 出 願 昭59(1984)6月26日

㉑ 考 案 者	堀 史 郎	柏市花野井627番地
㉒ 出 願 人	株式会社 飛弾製作所	柏市花野井627番地
㉓ 代 理 人	弁理士 松丸 国雄	

## 明 細 書

### 1. 考案の名称

容器

### 2. 実用新案登録請求の範囲

外表面に任意の模様、文字等を描くように配設した多数の穿孔2を有する金属容器1と肉薄の樹脂容器3とからなり、前記金属容器1内に樹脂容器3を嵌合すると共にこれを所定の金型に入れて加熱成形することにより前記樹脂容器3の一部を前記金属容器1の穿孔2に膨入係合せしめたことを特徴とする容器。

### 3. 考案の詳細な説明

#### 産業上の利用分野

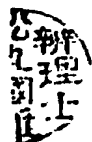
本案は、外側に金属容器を、内側に樹脂容器を配した二重構造の容器に関するものである。

#### 従来技術

金属と樹脂の二重構造をもつ容器は既に公知、公開であるが、従来市場に出廻っている容器の多くは金属容器と樹脂容器の密着結合関係が充分でなく、このため特にネジ蓋においては密

(1)

319



実開61-11525

滑不良による内外両蓋の一体回転が不能になつたり、或いは両蓋が分離脱落する等の不都合が生ずるものである。

考案が解決しようとする問題点

本案は金属容器と樹脂容器の二重構造からなる容器において、両容器の確実な一体結合関係を保障し、前記従来製品に内蔵する欠点を一掃しようとするものである。

問題点を解決するための手段

本案は同形状からなる金属製の容器と、樹脂製の容器とからなり、外表面に任意の模様、文字等を掘くように配設した多数の穿孔2を有する金属容器1と肉薄の樹脂容器3とからなり、前記金属容器1内に樹脂容器3を嵌合すると共にこれを所定の金型に入れて加熱成形することにより前記樹脂容器3の一部を前記金属容器1の穿孔2に膨入係着せしめた構成からなるものである。

作用

作用

前記の如く、樹脂容器3の一部が加熱による

(2)

膨張により金属容器 1 の穿孔 2 内に浸入した該穿孔 2 に係着するようになり、金属容器 1 と樹脂容器 3 は充分な一体結合関係が得られるものである。

以下本案の詳細を図面に示す実施例について説明すると、1 は金属容器、2 は該金属容器 1 の外表面に任意の模様或いは文字等を描くように配設された穿孔、3 は前記金属容器 1 と同形状を有する肉薄の樹脂容器であつて、この樹脂容器 3 を前記金属容器 1 内に嵌合し、これを所定の金型に入れて加熱（約  $200^{\circ}\text{C}$ ）成形する。加熱成形により樹脂容器 3 の表面が膨出してその一部が前記穿孔 2 内に浸入係着して金属容器 1 と樹脂容器 3 の一体結合が得られるものである。

#### 考案の効果

本案は叙上の如く、外表面に任意の模様、文字等を描くように配設した多数の穿孔 2 を有する金属容器 1 と肉薄の樹脂容器 3 とからなり、前記金属容器 1 内に樹脂容器 3 を嵌合すると共

(3)

にこれを所定の金型に入れて加熱成形することにより前記樹脂容器3の一部を前記金属容器1の穿孔2に膨入係着せしめた構成に係り樹脂容器3の表面の一部が金属容器1の穿孔2内に膨出浸入するもので、金属容器1と樹脂容器3の確実な一体結合関係が保障され、確実な回転防止並びに抜け防止効果が得られると共に前記の如く、穿孔2は任意の模様等を描くように配設され、この穿孔2内に樹脂容器3の表面の一部が膨入係着することにより非常に優美な立体模様が得られ、前記回転防止並びに抜け防止効果と相俟つて極めて斬新的な容器を提供し得るものである。

#### 4. 図面の簡単な説明

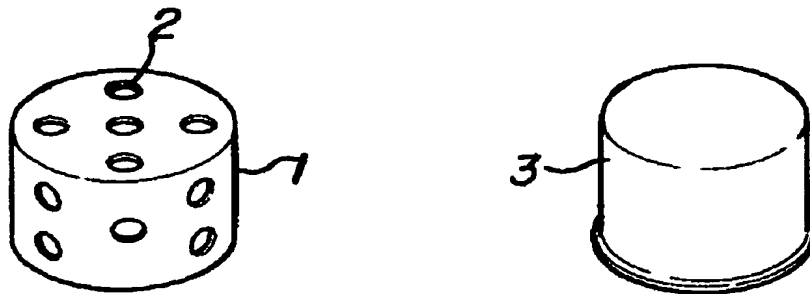
図面は本来の実施例を示すもので、第1図は金属容器と樹脂容器の分離状態を示す斜視図、第2図は両容器の結合状態を示す斜視図、第3図は両容器の成形状態を示す断面図である。

1 … 金属容器、2 … 穿孔、3 … 樹脂容器。

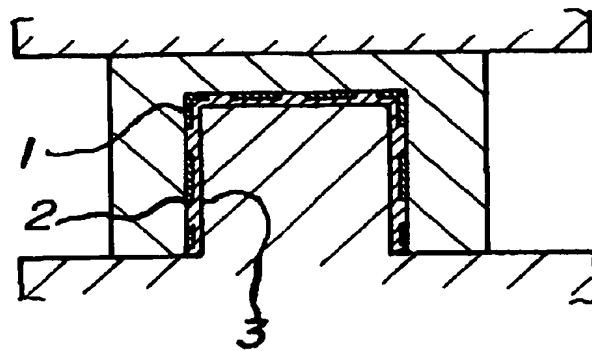
特許  
代理人

(4)

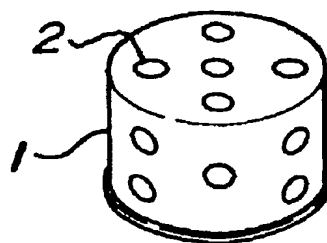
第 1 圖



第 3 圖



第 2 圖



- 1 ... 金屬容器
- 2 ... 穿孔
- 3 ... 樹脂容器

代理人、丹理士 松 丸 園 雄

323  
 之 丸 辦 理  
 職 國 理  
 實 開 4 月 1 日 525